

クレムリンが、シリアでの米のテロ支援に厳しい警告を突きつける

【訳者注】この記事のコメント欄のトップの、一番賛同の多いコメントは、ベトナム戦争当時の陸軍将校からのもので、「私は、相手がどこでも、アメリカが勝てと思ったことは一度もない」と言っている。アメリカの世界制覇計画が、いかに無意味で、無駄で、苦しみと恥辱だけを生み出すものであるかが、今、誰の目にも明らかになった。明らかにプーチンのロシアに、世界の重心が移動しつつあることを、この記事は教えてくれる。ここ数カ月で、更に決定的な大変動が起こるといふ予測は間違いないと思われる。

Gilbert Doctorow

October 9, 2017, Information Clearing House



時々、クレムリンは、Dmitry Kiselyov の日曜夜ウィークリー総括ニュース TV (国営 Rossiya-1) を利用して、ワシントンに対する、外交なしの、ズバリとした公的警告を突きつけることがある。

昨晩のはそのようなケースだった。ワシントンの目当てにされた者たちは、ロシア・トゥデーのフェイク・ニュース (と言われているもの) を見るのをしばらくやめて、モスクワからのこの本物のメッセージを読んでほしいと、我々は切に願う

そのようなメッセージの最近のものは、4月8日、ドナルド・トランプが世界を驚かし、アサド政権のイディブ地方での化学攻撃に対する処罰だと言ってやった、あのシリア空軍基地へのトマホーク攻撃の、翌週に届けられた。

キセリョフは、今度も、彼の放送時間を使って、ロシアのアメリカへの報復を通告したが、今度はその規模と深刻さにおいて前例のないものになる、というものだった。具体的にどうするかを、すべて一か所にまとめて示すことは重要なことだ。なぜなら、ペンタゴンの我々

の仲間は、高をくくって、勝手にあれこれ詮索しているからである。

わが将軍たちは、ロシア人たちは本気ではあるまいと、ずっと言ってきたが、キセリョフは、計画のすべてをスクリーンに映し出して見せた：——**退くか、それとも戦争の覚悟をせよ**、というワシントンに対する最後通牒だった。

もう少し前の、ワシントンに対する、この種のキセリョフの日曜番組でのメッセージは、シリア東部の防壁のある町、デルエゾルのシリア軍の陣営を、米軍とその同盟軍が間違っ**て爆撃した**と言っている事件のあった、次の週に行われた。

この爆撃は、オバマが承認して締結されたシリア停戦協定を、交渉セッションの14時間後に、破ったものだった。

ラヴロフ外相がこの番組に現れて、米防衛省アシュトン・カーター（当時）は、ジョン・ケリー（当時国務長官）を“誤爆した”、また大統領に背くという危険を冒した、これは何によらず、アメリカとは約束ができないこと示すものだ、と**いって公然と非難した**。

この最後の非難が、いま再び、キセリョフの昨日の番組に現れた。アメリカは、シリアでのテロリスト掃討作戦の“主たる障害”であり、“トンネルの向こうに光”が見えて、シリア領土が**90%以上政府の支配下に入った**ときに、起こったものだ。

要するに、アメリカは密かにテロリストを助けている：——武器を支給し、動きやすくしてやり、敵の攻撃を逃れさせ、空中偵察の情報を与え、シリア政府軍が活動している場所の地図、ロシア分遣隊の場所さえ教えている。

事態は、イスラム国の軍事能力でなく、**シリアをテロリストから解放するのを妨害する、アメリカの援助の問題**になってしまった。

これは彼自身の考えでなく、ロシア防衛省の公的な立場で、今週、Igor Konashenkov 報道官から伝えられた。

キセリョフは続けて言った：——

アメリカはすべてを否定している。しかしロシア連邦防衛省は、彼らの言葉を信ぜず、**事実に依拠して行動する**。先週も、パルミラとデルエゾルを結ぶ道路の一部が、狂信的軍団に占領された。

これは、デルエゾルから、シリアのテロ残党軍と戦うシリア軍を送るための、動脈だった。事実上これは背後攻撃だ。これはアメリカによって計画され、可能にされたものだ。

これと並行して、9月28日には、約300名のテロリストの大集団が、ヨルダンとの国境 Et Tanf の米軍基地領域から出動している。この領域には、何万という避難民がいるのだ。

キセリョフによれば、アメリカは、避難民キャンプを切り離し、国連や他の人道救援隊を入れず、彼らが支援しているイスラム国が、このキャンプを隠れ家、人間の盾として使えるようにしているのだ。

次にコナシェンコフ報道官からの、直接の警告が伝えられた：——もしアメリカ軍が、彼らの援助するテロリスト遊撃隊によるこうした攻撃を、“予期できないランダムな出来事”だと言うのなら、シリアのロシア武装隊は、シリア支配地域に向けられた、すべてのこのような“ランダムな出来事”を、完全に破壊する用意がある。

キセリョフは、どうしてこういうことが起こるのか、トランプがこれを決めたのだろうか、と問うた。

この質問は修辞疑問だ。トランプは関係ない。これは“驚くべき”ことかもしれないが、トランプはそこには加わっていないと思われる。それよりも、彼がずさんな管理と呼ぶものが原因で、軍隊が政治的コントロールから暴走し、シリアという領域で、“彼らは全く勝手にうろつき回り”、テロリスト集団と“いちやついている”ということであろう。

実情はどうであろうと——キセリョフは言う——結果は、ロシアにとってもアメリカの指導層にとっても、きわめて不愉快で、将軍たちは、冒険主義に押しやられることになる。

コナシェンコフは、シリアのヨルダン国境に近い米支配下領域を、長さ100キロの“ブラックホール”に例えた。このブラックホールから、嗅ぎタバコ入れから逃げ出す悪魔のように、テロリストたちが、シリア軍と平和な市民たちを攻撃しに現れてくる。

放映の主要な部分は、静かな音楽に乗って流れた——プーチンは、援助する者が誰であろうと、テロリストには勝つ自信をもっていることを、示すためである。

この近未来の勝利の確信からくる、オリンパスの神々のような静寂を示すために、週半ばの

モスクワ・エネルギー・フォーラムでの、質問に答えるプーチンの様子が、我々に見せつけられる。

プーチンはこう言っている：――

結局、我々すべて [おそらくアメリカも含めて] は、シリアとこの領域を、テロリストから確保することに共通の利害をもっていて、それが共同活動のために、我々を結合させるでしょう。

しかし一方において、我々は、過去一週間のロシア空軍の、シリアにおける活動の結果のビデオを見せてもらうことになる。

そこに含まれているのは、シリアを基地とするロシア機の 400 回以上の出撃と、SU134 機と 135 機がロシア領から到着する様子であり、これらは、1 ダースかそれ以上のテロリストのリーダーをと、50 名の兵員を殺してから帰ったものだった。

ロシアの空爆は、テロリストの 1,000 トンにもなる武器の、地下の隠し場を破壊した。また、地中海の潜水艦から発射された **Karibr** 巡航ミサイルによる攻撃は、イスラム国の指令施設や車両、また武器の貯えを破壊した。これによって、シリア軍が進軍して **Meyadin** の町を解放することが可能になった。

点と点はまだ全部つながっていない。しかしロシアの脅威は明らかで、彼らは空軍力を用いて、ヨルダン国境付近の地上米軍を含む、彼らの完全勝利の邪魔をするすべての戦力を、殲滅しようとしている。

昨夜の同じニュース総括には、また、直接的ではないが、シリアでの来たるロシアの勝利に関係する、別の部分が含まれていた。これはサウジアラビア国王が、この週に、90 年以上のロシアとの外交関係で、国家として初めてのロシア訪問を行ったことである。これは単純な出来事ではない。

Salman bin Abdulaziz Al Saud には、ビジネス・リーダーや大臣や長老軍人を含めて、随員が 1,000 人いた。彼らは、好みのカーペットや他の生活必需品を含めて、100 トンのカバンを持参したと言われる。

この訪問のすべてのあり様は絶対必要な物だった――両国の産業計画への数十億ドルの共同投資のための、契約の署名や親書、ロシアの液化天然ガスのサウジによる買い付けの可能

性、最新のロシアの S - 400 対空防衛システムを含む、数十億ドルの軍事装備の獲得、等々。

プーチンは、これも先週行われたモスクワ・エネルギー・フォーラムの司会者に、何も永遠なものはない、アメリカのサウジとの絆でさえそうだ、と言った。

キセリョフは、この訪問を、この地域全般におけるロシア外交のコンテキストの中に置いた。彼によれば、プーチンは、近東の平和的調和を求める政策を追求しており、これはこの地域のすべての国の利益のバランスを考えるもので、割に合う政策だと言った。

ロシアは現在、世界で唯一の、サウジ、イラン、イスラエル、トルコ、そしてもちろんシリアと、良好な関係をもつ国である。

放映のどちらの部分からも、アメリカの支配は崩壊しつつあるとわかるであろう。